

芦屋市立認定こども園・保育所

I C T × 教育・保育

なにがえきつ?

令和5年度 I C T 活用実践・考察集 vol.3



市立認定こども園・保育所

I C T 活用検討委員会

はじめに

近年、ICT（情報通信技術）は急速に成長し、社会においてその中心を担う要素となっています。そして経済発展と社会的課題の解決を目指す Society5.0 の実現に向けて、今後更なるテクノロジーの活用が不可欠となることでしょう。

学校教育においても、GIGA スクール構想を始め、ICT の積極的な活用による「個別最適な学び」と「協同的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現による児童生徒の資質・能力の育成を目指しています。

就学前の市立認定こども園・保育所においても、社会の変化を前向きに受け止め、平成29年度より、教育・保育活動に ICT 機器を活用して参りました。様々な「実体験」を通して、子どもたちの非認知能力等「生きる力」の基盤を育成してきた従来の教育・保育に、ICT を融合させることで、子どもの直接的な体験をより豊かにすることができると可能性を探り具体化してきました。

本冊子も今年度で3年目を迎えました。ICT がもたらす新たな可能性や実際の事例を通じて、子どもたちの学びと成長がどのようにサポートされているかをご紹介します。子どもたちの未来への可能性を広げ、共に歩む喜びを分かち合えることを楽しみにしております。

はじめに

目次

ICT 活用に係る目的・理由・経過・方針..... 1

ICT 活用実践・考察

精道こども園..... 3

西蔵こども園..... 5

緑 保 育 所..... 7

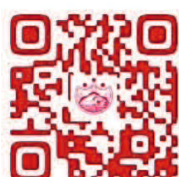
岩 園 保 育 所..... 9



芦屋市立精道こども園



芦屋市立西蔵こども園



ICT 活用に係る研修会	11
--------------------	----

～ 幼児期の教育・保育における ICT 活用の意義、効果的な活用及び気をつけること～

～ レッジョ・エミリアアプローチにおける子どもの学びと可能性を広げるための I C T 活用～

ICT 委員会「いいね！シート」活用事例	15
----------------------------	----

芦屋市立認定こども園・保育所 ICT 活用検討委員会協議事項骨子	22
--	----

おわりに



芦屋市立岩園保育所



芦屋市立緑保育所



3 経過

平成29年度～平成30年度 ICT活用に係る協議・検討
令和 元年度～ 市内の全公立認定こども園・保育所でのICT
活用の開始
令和 3年度～ ICT機器の拡充

4 方針

実際にタブレットを操作する活動は、対象児童を原則的に5歳児とする。

具体的な活動内容については、4つの市立認定こども園・保育所、それぞれで状況が異なるため、それぞれの状況により検討することとする。

しかし、子どもがICT環境に直接触れる教育・保育活動を展開し、楽しい体験を通じ、従来にない学びや、より興味関心を深める体験につなげることについては、すべての施設で共有することとし、それらを前提として次の要素については、活動内容に応じ、できる限り取り入れるように努めるものとした。

- ・ 協働性
- ・ 広い意味でのICTリテラシー

これらの要素の具体的な保育活動のイメージは、次のようなものである。

- ・ タブレットを活用する場合は、1台を複数人で利用すること。
- ・ ICTを活用する中で、子どもたちがICTの活用に関わるルールに触れること。

これらの方針により各活動を行った。

なお、活動中、使用したアプリケーションの概要は次のとおりである。

製品名	会社名	製品概要
アートポン!	株式会社 スマート エデュケーション	子どもたちの描いた絵をタブレットに取り込み、スクリーンに映し出すことで、バーチャルな水族館などを作ることができるアプリケーション
My 図鑑	KAIHAWK	My 図鑑は、子どもたちが撮影した画像を使用し、自分だけのオリジナル図鑑を作成することができるアプリケーション

以上

“ねっころガーデン” にようこそ！

～精道こども園に虫を増やそう！～

芦屋市立精道こども園 5 歳児

1 活動のねらい

- 昆虫と触れ合い、特徴や生態を調べることで興味関心を高める。
- 昆虫の生息環境を知り、自分たちで園庭の環境を整えることで虫が増える喜びを味わう。
- 「“ねっころガーデン” へようこそ！」の遊びを友達と協同して進め、作り上げる充実感を味わう。

＊園庭の一角を、虫を呼び込む為の庭にし、“ねっころガーデン” と名付けた。

2 ICTを活用する意図

- 昆虫について ICT 機器を使用することで得られる新たな発見があり、興味関心を深めることができる。
- 大きな画面に自分の作品を映して見ることで多人数の子どもと共有し、自分の作品の伝えたいところを明確にすることができる。



3 活用機器・アプリ

タブレット プロジェクター デジタル顕微鏡 「アートポン！」

4 実践

6 月 3 日「うわ！つぶつぶがある！」

5 月、園庭のプランターの花を見ていた K 児が黒いとげのある幼虫を見つける。図鑑で調べると「ツマグロヒョウモン」ということが分かった。友達と一緒に飼育ケースをのぞき込んで「チクチクしてる」「くろいなあ」「これ、こんなちょうちよになるんやで」と成長を楽しみにしていた。6 月、人と自然の博物館の方にデジタル顕微鏡でダンゴムシの足や口を見せてもらったことで、虫への関心がさらに高まった。デジタル顕微鏡が園にもあることを知ると「見てみたい」と飼育している虫を見始めた。ツマグロヒョウモンを見ると、とげの先に粒があることに気がついた。肉眼では見るのが難しいものをデジタル顕微鏡で見ることで新たな発見に繋がった。始めは保育教諭がデジタル顕微鏡に対象物をセットしていたが、何度か使うと自分達で動かし、見える位置を探るなど、扱えるようになった。



6 月 7 日「ぼく、カブトムシにきてほしいな」

虫に興味をもったことで精道こども園を虫いっぱい園にしたいという思いが膨らんだ。子どもたちの色々な思いが聞かれたので、1 人 1 種類来てほしい虫を紙に描いた。小さめの紙



だったのでタブレットで撮影し、スクリーンに映し出して発表した。どんな虫に来てほしいかを図鑑で見ていたA児はカブトムシを見つけて「ぼく、カブトムシにきてほしいな」と目を輝かせていた。調べるとカブトムシはクヌギの木の樹液を好むことを知り「調べたことも言いたい!」と、図鑑で調べてわかったことを発表した。A児の発表を聞き、カブトムシの好む木や何が餌になるかを知った子どもたちは、園内にクヌギの木がないかを探し始めた。見つけたクヌギの木にはちみつを塗ったり、昆虫ゼリーを吊り下げたりして、カブトムシがやってくるのを待った。

7月14日 「みてみて、これはチョウだよ」

アゲハ蝶やダンゴムシ、バッタが増えたことは大きな喜びとなった。そこで自分たちも虫の世界で遊んでみたいという思いから“ねっころガーデン”の制作が始まった。「アートポン!」で自分たちの描いた虫が、画面上の庭で動く様子を見たことで、動かして遊ぶことができる虫(立体工作)を作りたいという気持ちが膨らんだ。

「アートポン!」や立体制作を楽しむと、自分たちより年少の友達に伝えたいという気持ちが芽生え、招待することを話し合った。年少児に「アートポン!」を使って「これはチョウだよ」「テントウムシだよ」と分かりやすいよう指し示しながら話をしていた。「どのように伝えたら分かりやすいのか」と相手に合わせた伝え方を考える機会になった。



5 考察

- ・ デジタル顕微鏡を用いることで、肉眼では見られない、動く姿や幼虫が花を食べる姿や体の模様などを拡大して見る事ができた。新しい発見によって興味関心が高まり、虫たちを大切に育てたいという気持ちが育まれた。
- ・ 人前で発表する時にスクリーンの画像があることでより伝えやすくなった。「自分の伝えたいことが伝わった」という実感が喜びになり、さらに新たな発見や自分の考えを発信したいという気持ちが高まった。
- ・ 「アートポン!」では、「平面制作が動く」という視覚的な面白さを感じた。それが、自分でも動く昆虫を作りたいという立体制作の意欲へと繋がった。
- ・ 個の興味関心が、ICTの活用をきっかけに、学年全体の協同的な活動に発展した。

やにがそまつ?

- ◇ 「自ら調べ試す」ことで主体性が育った。
- ◇ 「もっと知りたい」という気持ちから探求心が育った。
- ◇ 力を合わせて“ねっころガーデン”を制作し、年少の友達を招待するための話し合いを重ねたことで、協同性が育った。



ツバメ劇場

～あしやのまちに ツバメがやってきた～

芦屋市立西蔵こども園 5歳児

1 活動のねらい

- ツバメの取り組みを通して、命の大切さを感じる。
- 友達と協力して「ツバメ劇場」を作り上げる充実感や達成感を味わう。
- 気づいたことや不思議に感じたことを自分なりの言葉で伝える。



2 ICTを活用する意図

- ICT 機器を使うことで実体験をすぐに振り返ることができ、興味や関心を深められる。
- デジタル顕微鏡を使うことで、新たな気づきや学びを友達と共有することができる。

3 活用機器・アプリ

タブレット プロジェクター デジタル顕微鏡 「LINE」「おうちえん」

4 実践

4月下旬～ 「ツバメ探検隊」

春みつけの散歩で、宮川の上を飛んでいるツバメを偶然発見した。この発見からツバメに興味をもった子どもたちは、ツバメ探検隊になってツバメ探しをはじめた。打出商店街や街のクリーニング屋さん、タクシー会社など、さまざまな場所に探検に行った。探検では、ツバメが巣を作るところから、ひなが生まれて巣立つまでの、ツバメの一生を見ることができた。

ある時、ツバメの巣をもっと近くで見たいという子どもの声から、旧新浜保育所にあるツバメの巣を見に行くことにした。すると、ツバメの巣の下に白い「ポップコーン」のようなものが落ちているのを子どもたちが発見した。「これはフンだ」と推察する子どももいたが、デジタル顕微鏡を使ってよく見てみると、白い部分と黒い部分があり、本当にフンなのか疑問が残った。園内の先生に聞いても、知っている先生はいなかった。そこで、園長からの紹介で、「人と自然の博物館」から「ツバメ博士」として、小舘先生を紹介してもらう。アプリの「LINE」を使ってビデオ通話でつながり、園に来てもらうことになった。そして、小舘先生から「白いポップコーンのようなものは、白い部分はおしっこの塊、黒い部分はうんちの塊」と教えてもらった。他にも、ツバメについてたくさんを教えてもらった。



5月上旬～ 「ツバメの表現遊び」

ツバメ探検を通して、ツバメの生態や特徴を知った子どもたち。飛ぶツバメや巣を作るツバメ、巣からお尻を出してフンをするツバメなど、これまで見てきたツバメの行動をタブレ

ットの動画を通して振り返ったことで、表現遊びを楽しんでいた。ツバメの巣の制作では、旧新浜保育所に落ちていた巣を回収・分類し、デジタル顕微鏡で拡大して見てみると、「泥がある!」「藁がある!」と新しい発見ばかりだった。そして、紙粘土・泥・藁を使って混ぜ、混ぜたものをツバメの一口の大きさを考えて丸め、巣にくっつけていた。その泥も園庭から最適な土を探し、「これ（畑の土）ではまだ土だ、水を混ぜないと」と一人の気づきから広がり、土に水を入れることで一から泥を作った。



6月下旬～ 「ツバメ劇場」

子どもたちから、これまでの観察やツバメ博士との交流で知ったことを、他学年の友達にも伝えたいという声が上がった。そこで、どのようにして他学年の友達に伝えるかを話し合い、ツバメになりきって身体表現しながら、これまでの気づきや発見を紹介する“ツバメ劇場”を開催することになった。その際、これまでの活動の記録を1つの動画としてまとめ、さらに子どもたちの伸び伸びとした姿やこれまでの経験を保護者にも知ってもらいたいと思い、アプリの「おうちえん」使って動画を配信した。



5 考察

- ・ 観察を通してツバメに自分を重ねながら、思いやりの気持ちをもつことができるようになった。
- ・ ツバメ劇場を開催するという明確な目標を設定したことで、そのために何が必要か、どのようにお客さんに伝えるのかを子ども同士で考えながら、協力して作り上げることができた。
- ・ 商店街の人やタクシー会社の人にインタビューできたことで、コロナ禍では難しかった地域とのつながりを感じ、自分たちの町にもより興味や関心をもつことができた。

やまにがそまつ

- ◇ ICT 機器を使うことで、子どもの実体験をすぐに振り返ることができた。すぐに振り返ることで、その場では出なかった意見や気付かなかったことが新たに見つかることもあり、子どもの学びの深化や新たな興味、関心につながったと考える。
- ◇ ICT 機器を使うことで、専門家とすぐにつながることができた。また、専門家とつながったことで、疑問に思っていたことが解決し、さらに新しい疑問に出会うという連続した学びを得ることができた。

色々な国の言葉で歌えるよ！

～ 『おはよう』×ICTで広がる歌唱活動 ～

芦屋市立緑保育所 5歳児

1 活動のねらい

- 世界の色々な国の文化に興味をもち、友達と共有することを楽しむ。
- 友達と自分の違いを認め合い尊重し合う。

2 ICTを活用する意図

- 興味をもった国の言葉を友達と一緒に、音声で聞いたり文字でみたりすることができる。

3 活用機器・アプリ

タブレット 「翻訳」

4 実践

6月初め～ 「“good morning”は英語の“おはよう”なんだよ」

クラスで『♪きらきら星』を歌い始める。S児が英語で歌い始めたのを聞いて「英語？」「英語習ってるの？」と注目を集める。「ママは英語でお喋りするの」とS児が伝えると、「英語の“おはよう”は“good morning”って言うんだよ」と声が上がる。そこで、朝の会で歌っている『♪おはようの歌』をS児に教わりながら、英語で歌ってみる。

6月中旬～ 「英語を話す国はどこかな？」

朝の会の始まりに英語で『♪おはよう』を歌いたい！とリクエストする子どもが多くなる。「英語はアメリカやで」と言う声が上がると「アメリカってどこ？」と尋ねる子どももいる。すると「ここ！」と地球儀を使ってアメリカの位置を指さす子どもが現れる。



「僕のパパ、ペルー（から来た）」とペルーの

国旗を地球儀の中で見つけ、A児が友達に知らせる。すると「ペルーは何語？」「ペルー語はどんなん？」と言葉への興味が広がる。そこで、タブレットのアプリ「翻訳」を使い「おはよう」をスペイン語（ペルーの母国語）に変換して聞いてみる。

7月中旬～ 「他の国も調べてみたい！」

「お父さんのスマホでフランス語の『おはよう』調べてもらった！」「“bonjour”やで」とM児が話す。「他の国も調べてみたい！」という声が上がったので、3、4人ずつグループになって、自分達でタブレットを操作して調べる活動をする。どこの国を調べるかと相談する中で「R君のママは何語喋ってるやろ？」と自分達とは違う言語で会話をしている様子を



思い出し、興味をもつ声があがる。「R君のママはポルトガル語だよ」と保育者が知らせると各グループでポルトガル語を調べ始める。ポルトガル語の「おはよう」がなかなか聞き取れず、何度も再生しては発音し合って確かめる姿が見られる。やっと“bon dia”が言えるようになると「みんなは?」「今日も元気は?」と『♪おはよう』の歌に出てくる言葉を調べては発音し合って楽しむようになる。「あかん、すぐに忘れてしまう」と笑い合いながら覚えるまで繰り返し再生し、発音していた。

7月下旬～ 「ピアノ弾いて!」

ポルトガル語での歌詞を覚えた子ども達から伴奏を弾いてほしいと依頼があった。伴奏に合わせると発音しにくくなる様子が見られたが、リズムを合わせながら歌うことができるようになった子ども達が率先してクラス全体に伝え、ポルトガル語での『♪おはよう』を朝の会で歌って楽しむようになる。



5 考察

- ・ セタにおいて歌い始めた♪キラキラ星を、英語を母国語とする子どもが英語でロズさんだことをきっかけにクラスの子ども達に英語への興味が広がった。その機会を活用したことで地球儀や絵本を使って英語を話す国に興味を広げると共に、外国語を調べるというタブレットの新しい活用の仕方を知らせることができた。
- ・ アプリ「翻訳」の音声認識機能を使うことで、文字を使わなくても簡単に色々な国の挨拶を聞くことができ、就学前の子ども達でも簡単に外国語を調べることができた。
- ・ 知った言葉を生活の中に活用することで、色々な国にルーツをもつ友達への尊重の気持ちが深まった。

まとめ

- ◇ 興味や関心をもった時を逃さずに色々な国の言葉を簡単に調べ、友達と共有体験することで知識や技能の基礎や学びに向かう力を育むことができる。
- ◇ クラス活動を家庭で容易に保護者とも一緒に楽しみながら再現することで、さらに探求心を高めることができる。

見てみて！自分だけの図鑑ができた！

～アプリ「My 図鑑」を通して育まれる観察力と言葉による表現力～

芦屋市立岩園保育所 5 歳児

1 活動のねらい

- 自然に触れて遊ぶ楽しさを味わい、生き物の生態や成長過程に関心をもつ。
- 継続して観察することで、発見する喜びや疑問を解決する面白さを味わう。
- 自分だけの作品(図鑑)を作ること、充実感や達成感を味わう。

2 ICTを活用する意図

- 写真を撮る経験を積み重ねることで、撮りたい部分を明確にし、細部まで観察する力を養うことができる。
- アプリを活用し、タブレットに記録することでいつでも見返すことができる。
また、プロジェクター活用により全体で共有でき、他者の発見や気づきに触れ、さらなる興味や関心が深まり、視野の拡大に繋がる。



3 活用機器・アプリ

タブレット プロジェクター 「My 図鑑」

4 実践

5月1日 「写真を撮るのがって難しいね」～春みつけ図鑑作り～

A 児は、園庭に咲いているビオラの花びらの色がきれいだと保育者や友達に見せていた。保育者は、「他の花びらとは違って黄色とオレンジ色が混ざっていてきれいだね。写真に撮ってみる？」と提案する。タブレットのカメラを立ち上げると、「先生みたい、一人でできるかな？どうやって撮るの？」と興味津々の様子だった。カメラの位置を定めるのが難しく、花びらがなかなか映し出されないことが分かり、「ぜんぜん映らない、撮るのがって難しいんだね」と発見があった。ようやく焦点が定まり写真を撮ることができると、向かいで見ていた



B 児の顔を見て「できた！」と嬉しそうな表情で報告していた。その後も風に揺られる花びらを追いかけて、タブレットを動かしながら「めしべを写したいのにどうしよう」と試行錯誤する姿があった。

6月15日 「かいこの半月紋はんげつもんをみんなにも見せたい！」～かいこ図鑑作り～

写真を撮ることや、撮った写真を「My 図鑑」のアプリの中の自分のページに取り込む作業に慣れてきた子どもたち。かいこの幼虫が成長し、体が大きくなる過程で、体にある模様がはっきりしてきた。その模様の名前を所内にある図鑑や家庭で調べて来る姿も多くなった。C 児と D 児は登所してすぐに「半月紋だったよね！」「星状紋もあるみたい！今はまだ分からないね」

と意見交換をしていた。C 児はその日の写真撮影時に、「星状紋を映して、みんなにも見せたら？」と保育者に言いながら、カメラの位置を動かしていた。「指を動かして、大きくする(拡大する)方法もあるんだよ」と知らせると、「見たことある！すごい！」と実際に自分で写した部分を拡大する方法を知ることができ、喜んでいた。



6月20日 「発見したことを自分の言葉で伝えてみよう」～仲ノ池生き物図鑑作り～



神戸女学院大学人間科学部環境・バイオサイエンス学科の教授や学生たちと一緒に環境プロジェクトの一環として、近所にある仲ノ池の生き物探しをする活動があった。所内に帰ってきてから、図鑑作りをすることを伝え、「知っているからできる！」「お姉さんに教えてあげる」と意欲が感じられた。各グループの図鑑を作り終え、プレゼンテーションの機会をもった。写真のE児

は、図鑑を作り始めた頃、「すごい」や「不思議」といった一文のみだった気づきが、毎回三文ほどの文章になり、図鑑のコメントに載せる気づきや感想を自分の言葉でどんどん表現できるようになった。

5 考察

- ・ 自分で写真を撮って記録に残す活動を継続したことで、写真を見返しながら、拡大縮小をした時に細部まで発見できる面白さを味わうことができた。この体験から身の回りの自然物や飼育物により関心をもって関わるできるようになったのではないかと考える。また、タブレットだけではなく虫めがねを活用して、時間をかけながら集中して観察できるようになっている。
- ・ 日頃から目にしている図鑑ではなく、自分だけのオリジナル図鑑を作成することで、愛着をもち、毎日の小さな変化を読み取る姿に繋がったと考えられる。図鑑を見せ合いながら、自分だけの気づきや考えたことを友達と共有する喜びを感じる経験になっている。

やにがえりっ?

- ◇ 紙面だけではなく、タブレットに記録を残すことで瞬時に繰り返し見返すことができ、「今度は〇〇したい」「こうしてみたい」というように、どこに視点を置くのかを明確にしながら観察する力が育つ。
- ◇ 自分発信の新たな気づきや解決した疑問は、誰かに伝えたいという意思が強く、その中で言葉での表現力が育つ。



令和5年度 I C Tを活用した教育・保育研修会

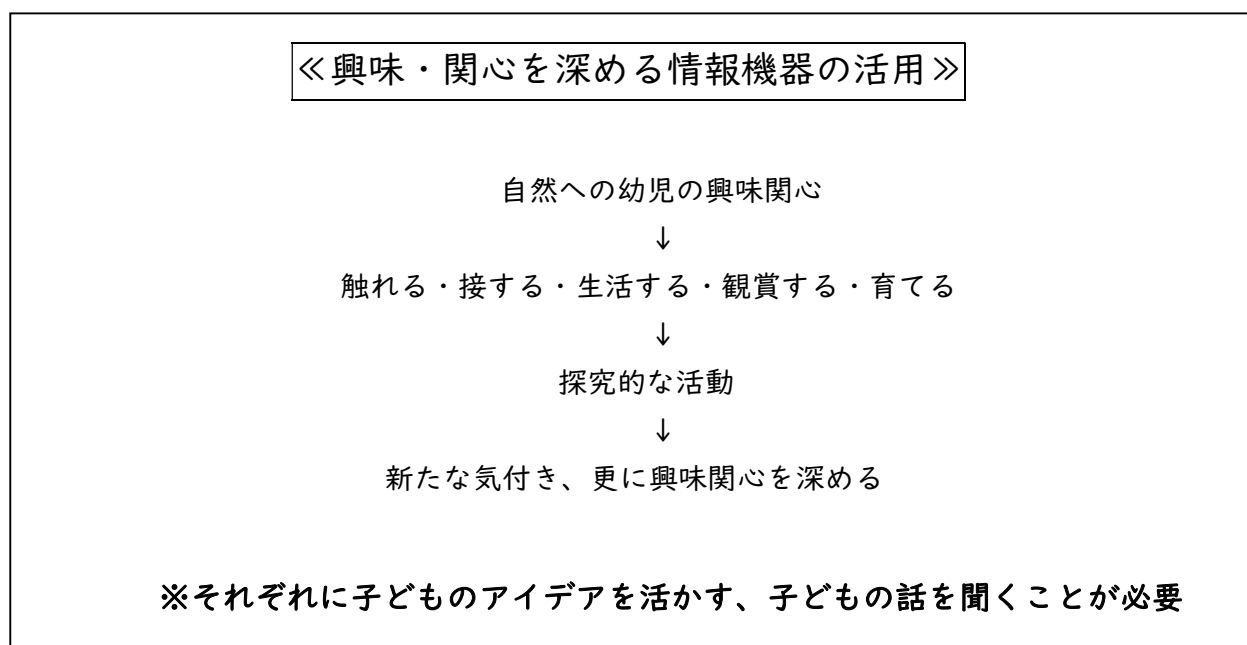
「幼児期の教育・保育における I C T活用の意義、効果的な活用及び気をつけること」

日時 令和5年7月11日(火) 午前9時45分～午前11時30分

場所 精道こども園

講師 園田学園女子大学 人間教育学部 児童教育学科 堀田^{ほった} 博史^{ひろし} 教授

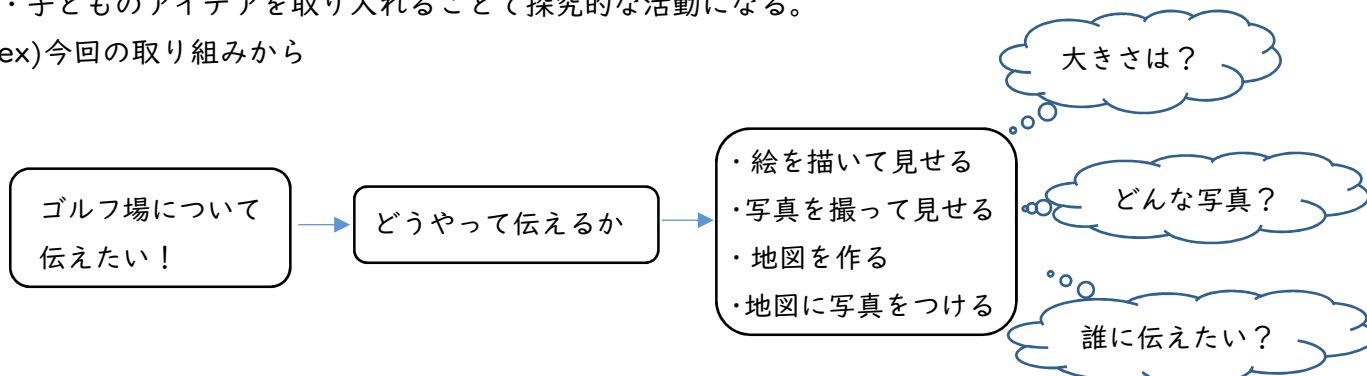
○保育におけるICTの活用方法



○子どもの興味・関心を引き出すために

・子どものアイデアを取り入れることで探究的な活動になる。

ex)今回の取り組みから

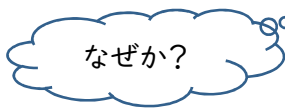


☆子どもたちと話し合い、「アイデア」を出し合うことが主体的な活動へと繋がる

○ICT を取り入れた活動において

“人の話をよく聞いて、質問や感想を言うことができる？”

→小学2年生対象のタブレット操作についての調査より、自己評価は65%と断然低い。



質問や感想を話しやすい機会が設けられていない。



☆ポスターセッションを取り入れると良い

- ・各コーナーで、子どもが自分たちで撮った写真を模造紙に貼るなど、パネルにする。
- ・年少児は各コーナーを回って話をきき、質問する。

◎発表会形式より、発表者、質問者ともに緊張が少ない。

◎「聞き手に伝わっているか」「どう評価してくれたのか」が分かりやすい。

◎取り組みを通して自分たちでまとめたものを貼りだすなど、じっくり時間をかけて振り返りができることも大切＝学びの保証

- ・写真とコメントのドキュメンテーションだけでなく、紹介したいものに応じて動画で紹介する機会があっても良い。子どもが自分で動画を撮ることは難しいが経験は必要。撮り方を教わる必要はない。ぶれていようが子どもが思った瞬間に撮る経験が良い。
- ・子どもが写真・動画を撮る経験、発表を通して伝える経験を積み重ねることで、「伝えたい内容」「相手によってどのように伝えるか」等内容や方法の選択の広がりにつながる。

○子どもたちがアイデアを出す時に必要な問いかけとは？

→思考発問が多く出されることが必要。

なぜそのような事が起こったか？
理由を自分の頭で考える問い

記憶発問

既習事項を覚えているか？
ex) 正方形の面積の求め方



思考発問

子どもが興味をもち
探究的な活動に繋がるような…



ICT の活用

○最後に…

- ・就学前の ICT 活用について、県・国単位で見たときにどのような方向に向かっている？

→日本の幼児教育では積極的に ICT を活用した教育に取り組もうとしているとのこと。

ex) ヨーロッパ…幼児期の ICT 活用はもう少し慎重にすべきという方向性

中国・上海…保育後の決まった時間にタブレットで勉強をしているなど規制あり

最近の傾向：アプリ使用ではなく、写真や映像を撮る活動から進める傾向になっている。

カメラやビデオ機能の活用→そこで生まれた発見→アプリ使用へ

タブレット使用のルールを子どもが決めるようになった。

就学前にアプリの練習を目的としたトレーニングは必要ない。しかし、今後触れる機会が増えていくことから、タブレットに慣れる時間はあっても良いのではないかな。

以上

令和5年度 ICTを活用した教育・保育研修会

「レッジョ・エミリアアプローチにおける子どもの学びと可能性を広げるためのICT活用」

日時 令和5年8月29日（火） 午後1時15分～午後2時30分

場所 岩園保育所

講師 みりおらーれ代表 ^{つだ あやか} 津田 純佳 氏

<レッジョ・エミリア市の幼児教育について>

- ① レッジョ・エミリア市はイタリアのエミリアロマーニャ州にある人口17万人程の都市。
旧市街地に33の公立保育園、幼稚園があり広場や劇場も多く、文化・伝統を大切に守っている。
- ② レッジョ・エミリアのアプローチ
子どもたちにはたくさんの自由が必要である。
 - ・探索する自由（実験や調査してみる）
 - ・挑戦する自由（まずはやってみる）
 - ・間違ふ自由（探索に正解も不正解もない）
 - ・正す自由（もし違ふと思ったら、何度でも挑戦しなおすことだってできる）子どもたちは毎日新しい世界を発見し探求している。
- ③ 学びの空間の考え方
 - ・環境は「第三の先生」。良い環境で過ごす権利を持っている。
 - ・透明やガラスを使った物が多く、見る・見られるという意識を高める。
 - ・活動は少人数で行い、階段やアトリエなども遊び場になる。
 - ・広場を中心に各部屋があり、広場は子どもたちの遊び場や大人の会議などにも使われる。
→ヨーロッパの人たちにとって広場はとても大切な場所で、人や考えに出会うことができる場。
- ④ アトリエ（幼稚園にはアトリエという部屋がある）
 - ・作品を作る場（工房）というよりも新しいことを誰かと試すことができる実験室に近い場所。
 - ・実験・発見・体験し、誰かとの出会い、対話する場である。
→誰かとは人だけでなく、物や目に見えないものも含まれる。
 - ・感覚を研ぎ澄ますことができる。
 - ・アトリエリスタ（先生）が各園にいて、少人数で活動する。
- ⑤ アトリエリスタの役割
 - ・言葉以外の言葉で、子どもたちの学びの可能性を広げ、高め、深める。
 - ・光、紙、音、グラフィック、粘土、植物など様々なものを使って活動をする。
 - ・感情（喜び、驚き、不思議、疑問など）を受け止め、深めていく。
 - ・五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を刺激していく。
 - ・学びの環境をよりよくする。 →美しさを知る子どもは、美しくない環境に行くと美しくしようとする。学びたいという気持ちの中には美しくしたいという気持ちがある。

⑥ 子どもの権利

- ・子どもは生まれた時から市民である。
- ・子どもは子どもらしく存在するという権利がある。
- ・居心地の良い環境で質の高い教育を受ける権利がある。

< I C Tについて >

① I C Tは言語と言語を繋げ、転換する。

→言語・言葉以外にも光や音も含まれる。

子どもたちがどんなことを発見できるのか、どんな出会いを見つけられるか、どんな美しさがあるのかを大切にしていく。

例) 拡大鏡を使って、葉脈を見てみたり、色を拡大してみたり、あるものを別の視点に転換してみる。

② I C Tの特徴

- ・視点を変えてくれる。
- ・異なるもの同士を繋いでくれる。
- ・個別の活動になりやすい。

→多くの子どもと共有できるように工夫が必要である。

③ I C Tを活用して

- ・ I C Tを使った立体構成

影を使って遊ぶ。

赤外線カメラを使用して映し出す。

鏡で反射させて投影する。(鏡と光の相性はとてもいい)

- ・ マイクロスコープを使って

大きくなるだけで面白い。別世界が見られる。

新しい発見がたくさんある。たくさんの不思議がつまっている。

- ・ カメラ、プロジェクターを使って

カメラで撮影し、プロジェクターで映し出し、立体的に物語作りをしていく。

素材として、透明の物、半透明の物、光を通さない物などを準備しておく。

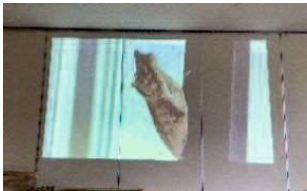
プロジェクターで鏡を反射させ、3つに映し出す。

※素材はアナログなものがよい

人工的な物は色が均一で直線的な物になってしまいがちなため、自然の物もとり入れていくとよい。自然の物は色、形がすべて違い常に変わっていく普遍的な美しさがある。

⇒ I C Tは対象をよりよく知るための選択肢のひとつである

以上

精道こども園 5歳児 5月30日（火）	
育てたい力	観察力 表現力（言葉や身体で）
その機器を選んだ理由	子どもの興味・関心に沿った具体的な観察、イメージの共有のため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター
5歳児が見つけたアゲハの幼虫を4歳児でも飼育することに。名前をみんなで考え「みっどちゃん」とした。 - アゲハの絵本で触角を出すことを知り、触ってみると黄色の触角が出てきたので、撮影しスクリーンに映した。よりアゲハの生態への関心が深まり、リアルタイムでも映しながら、様々な部分を拡大して見た。 - 幼虫だけでなく、「ウンチも大きくして見てみたい」と声があり観察すると、「つるつるじゃない」「へこんでいるところがある」と新たな発見があった。また、絵本で見たようにサナギが口から糸を出し体に巻き付ける様子を実際に見たことから、自分たちも身体で表現する遊びに繋がった。飼育していく中でICT機器を活用したことで、様々な発見や興味生まれ、活動が広がった。	
   	
精道こども園 5歳児 7月6日（木）	
育てたい力	人（異年齢児）とかかわる力 思いやり 自分の町への興味・関心
その機器を選んだ理由	子どもが扱いやすいため 情報の共有がしやすいため
活用機器・アプリ	タブレット
- 園内の植物の名前を他クラスの友達に知らせたいという気持ちから、園内のマップ作りが始まった。 - 春から色々なところに散歩に行ったことで、園外のことにも目が向き、自分たちの町である芦屋のマップを作るようになった。マップを作るにあたって、他クラスの友達に知らせたいという気持ちは大きく、気に入った場所をグループで話し合い、写真を選んだりコメントを考えたりしてドキュメンテーションを作り、知らせることにした。	
  	

精道こども園 5歳児 10月17・18日（火・水）

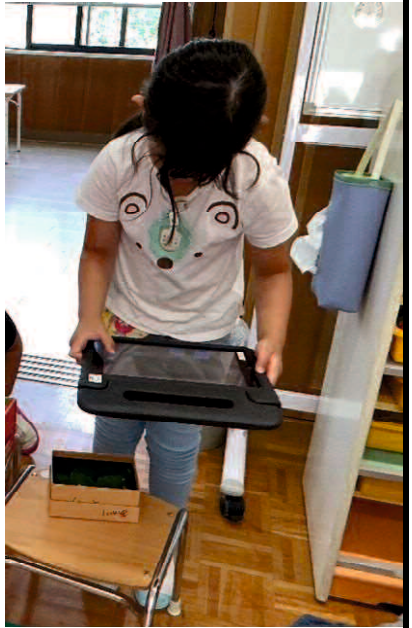
育てたい力	観察力 伝える力 表現力
その機器を選んだ理由	子どもが撮影しやすく、共有しやすいため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター
- 遠足で神戸動物王国に行った。グループごとに見て歩いたので、見た動物を学年で共有し、他学年に知らせるためマップ作りをした。 - グループごとにエリアの担当を決め、子どもたちがタブレットで撮影し、次の日にエリアごとの動物を紹介した。 - 子どもが自分たちで動物を撮影することで「動いているからむずかしい」と撮影するを経験したり「こっちから撮ったら?」「〇〇ちゃんうまいやん」と友達同士で考え、認め合ったりする活動になった。	
  	

精道こども園 2歳児 10月20日（金）

育てたい力	生き物への興味・関心 観察力 表現力
その機器を選んだ理由	実際に見ることが難しい場面を全体で共有して見ることができるため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター
「10ぴきのかえる」のお話を読む。かえるは飼育しているので馴染みはあるが、おたまじゃくしは「見たことない」と話していた。おたまじゃくしの成長過程の動画を見て、「足が出てきた!」「お口ぱくぱくしてる」と様々な気づきや驚きがあった。 - 動画で見たおたまじゃくしの姿から、表現遊びにつながる。しっぽを振って泳ぐ様子や餌を見つけて口をパクパクさせながら食べる様子を表現していた。	
   	

西蔵こども園 2歳児 4月28日(金)	
育てたい力	想像力
その機器を選んだ理由	クラスの子どもたちがみんなと一緒に楽しむことができるため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター 「アートポン！」
- チューリップの制作をした時、戸外でチョウを見つけ追いかけて遊んだ経験からチョウも制作することに決める。 「アートポン！」のテーマは、西蔵こども園の園庭や制作したチューリップ、子どもたちの写真を背景にすることで、子どもにとって親しみのあるものにする。 - スクリーンに自分が作ったチョウが映し出されると、「(名前)のちょうちょ！」と気づく。一人ずつ作品をピックアップすると、自分のチョウが動く様子を面白そうに見る。この活動のねらいとしては、自分の作ったチョウが動く面白さを感じることはしたが、そのねらいとともに、いつもと違う表現(掲示)のされ方を楽しんでいた。	
  	
西蔵こども園 3歳児 5月23日(火)	
育てたい力	食への興味・関心
その機器を選んだ理由	直接見るのが難しいため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター
- 給食の先生に、その日の給食の野菜を切っている動画を撮ってもらい、遊戯室で見る。 - 野菜が細かく切られていく様子を見て、一緒に切る真似をしたり、細かくなった野菜をみて「人参!」「しいたけ!」など野菜の名前を予想したりしながら、興味をもっていた。 - その後の給食で、動画で見た野菜がどこに入っているか、「野菜見つけ」をして楽しみながら食事をした。 - まだ園での給食に慣れていない1号認定児や好き嫌いのある子どもも、動画を見たり「野菜見つけ」をしたりしたことで、食べてみようという意欲につながった。 - まだ子どもたちが新しい園生活に慣れていない時期だったため、担任が抜けてプロジェクターの準備をしたり、ホールへ移動したりすることが大変だった。保育室で見られる環境があれば、もっと気軽に活用できると感じた。	
  	

西蔵こども園 5歳児 6月21日(水)	
育てたい力	興味・関心 知識 人とのつながり
その機器を選んだ理由	簡単に対面することができないため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター 「LINE」
「ツバメ探検隊」になってツバメを観察してきた子どもたち。旧新浜保育所にツバメの巣を見に行くと、白い「ポップコーン」のようなものを発見した。この「ポップコーン」の正体がわからず、園内の職員にも聞いてみたが、知っている職員はいなかった。 - 園長からの紹介で、人と自然の博物館に「ツバメ博士」がいると聞き、その博士に「ポップコーン」の正体を聞いてみることにした。そのために、アプリの「LINE」を使ってビデオ通話でアポイントメントをとり、その翌日「ツバメ博士」が来園してくださった。 - ICTがあったからこそできた、人とのつながりだったと感じる。 - 実際に専門の人から教わることで、子どもたちの興味や関心を深め、より好奇心や探究心をもつようになった。	
 	
西蔵こども園 4歳児 10月25日(水)	
育てたい力	伝える力
その機器を選んだ理由	見つけたものを拡大し、クラス全員で共有するため
活用機器・アプリ	タブレット
- 事前に公園で気に入ったドングリや木の実、葉っぱを拾い、園に持ち帰る。ドングリの大きさで種類分けをしたり、秋の自然物が載った絵本を見て木の実の名前を調べたりする。 - 見つけた物の中から一人一つお気に入りの木の実を選び、順番に発表する。事前にタブレットでそれぞれの木の実を撮影しておき、拡大して見せる。発表する子どもは実物を持ちながら、「これはどんぐりのぼうしです」「どこでひろった」「ハートになっているところがすき」など、自分の思いを友達の前で発表した。 - 実物と共にタブレットで拡大して映したことで、細部までクラス全員が見ることができた。子どもたちも友達の発表を集中して見たり聞いたりすることができた。	
  	

緑保育所 5歳児 5月19日(金)	
育てたい力	消防署見学へ向けた意欲をもつ
その機器を選んだ理由	子どもたちの興味に合わせて学びあうため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター
- 消防署見学に行く前に、消防署で働く人や消防署についての話をしたことで意欲を示していた。 - 場所の共有をする為に、Google の航空写真を使った。日本列島を映し出したところから、近隣地域まで拡大をしていくと「うわ、ダイエーや」と知っている場所を見つけて喜んでいた。 - 皆で自分の知っている情報を出し合いながら、目的の消防署を探し共有することができた。 - 集中が続きにくい子どももよく見て参加することができた。	
	
緑保育所 5歳児 6月16日(金)	
育てたい力	予想 比較 分類
その機器を選んだ理由	蚕の成長を記録し友達と確認し合うことが出来るため
活用機器・アプリ	タブレット 「カメラ」 「My 図鑑」
- 蚕の誕生から成長の段階をカメラで撮って記録する。 - 一人2匹ずつ自分の蚕の世話をし始め、自分で成長の様子を撮影する。 - 撮り集めた画像を自分で見て成長の様子を見比べたり、友達と見合ったりする。 (＊出来上がった自分の図鑑をプリントアウトし、製本した。)	
 	

緑保育所 3歳児 8月22・24日(火・木)	
育てたい力	想像力 表現力 興味・関心
その機器を選んだ理由	簡単に ICT に触れるきっかけになるため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター 「アートポン！」
- 保育者が描いた魚がアプリ内に泳いでいる映像を見せ、仲間を増やしてほしいと伝えると意欲や関心をもっていた。 - 色付きの画用紙にオリジナルの魚の色塗りをして、保育者と一緒に初めてタブレットを使って取り込む作業を行う。(初めての使用だったので、“これを使っていいんだ”と恐る恐る触れる様子) - 自分たちの魚がアプリ内に反映されると、認識するまでに少し時間がかかったが喜ぶ。「これ誰の魚？」と尋ねると、自分や友達の魚をよく覚えていて答える。 - 保育者が「仲間を増やしたいね」と伝えると、「エビ」「カニ」等とりクエストがあったので、後日色塗りをし、アプリ内に取り込んだ。昨日よりも自分たちの絵が現れることに期待感をもつ。2歳児も招き、楽しいことを共有した。	
	
緑保育所 5歳児 10月11日(水)	
育てたい力	基本的な生活習慣の獲得及び意欲
その機器を選んだ理由	おやつ調理過程を知り、食事への興味・関心を深めるため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター
- 春から畑で育てた玉ねぎ、いんげん豆、トマトを収穫する度に調理法や材料をクラスで相談しクッキング保育を行ってきた。 - その日のおやつで食べる『蒸しパン』が出来上がるまでの給食室での調理過程の動画を給食の職員に解説してもらいながら見る。給食の先生に感想を伝えたり、「黒糖蒸しパンと胡麻蒸しパンの色が違うのは何故か」「(蒸し器の) 穴は何故あいているのか」など質問をしたりした。 - 後日、家庭で蒸しパン作りに挑戦した子どもが「白いお砂糖でしたから白い蒸しパンができた！」と友達に報告すると「うちのお砂糖白くないから、お休みの日に作ってみるわ」と伝え合う姿が見られた。 『オレンジ蒸しパン』の日に「これも蒸し器で作ったのかな」と給食の職員に質問する姿が見られた。	
	

岩園保育所 4・5歳児 7月4日(火)	
育てたい力	季節の自然事象への興味・関心 想像力 表現力
その機器を選んだ理由	実体験が難しいことを体験することで、イメージをもてるようにするため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター
4、5歳児でのアトリエ活動『プラネタリウム(星空ドーム)』作りの導入として、夏の星座の動画をタブレットに保存し、プロジェクターを通して鑑賞会を行う。涼しく暗い部屋で見ることに、「映画みたい」と期待を寄せている子どもが多い。 - 動画の中では、こと座(おりひめ)やわし座(ひこぼし)、天の川が登場し、七夕が近くなって聞き親しんでいる言葉が聞こえたことに、より関心をもって見ている子どもがいた。動画を見た後に、星の大きさを比べながら“一等星”などの話もすることで、その後の活動の星作りでは、星に見立てた白い丸シールを貼りながら「これは大きいから一等星だよ」「何座を作る？」と動画を通して知った言葉を友達と伝え合う姿が見られた。	
   	
岩園保育所 5歳児 10月5日(木)	
育てたい力	メタ認知 自己表現力
その機器を選んだ理由	活動を振り返るため クラス全体で共有したいと思ったため
活用機器・アプリ	タブレット プロジェクター
- 運動会を目前に、自分や友達の良いところ、新たな気づきによる課題を見つけてほしいと思い合同練習での様子を動画に記録し、翌日にクラスで動画を見ながら活動を振り返った。 - 自分が映る姿を喜びながら、周りの友達と違う動きをしていることに気づくと、「ちょっと前に出すぎたから気をつけないと」と、次回への課題を自分で見つける子どもがいた。また、自分の良いところだけではなく、友達の良いところを具体的な言葉で伝える姿があり、認め合う機会に繋がった。 - 動画を見てから、2、3人の少人数でペアトークを行った。発表形式ではなく、会話形式にすることで、話題を自分たちで展開させながら自分の言葉で表現することを楽しむ姿があった。この活動後に、運動会の練習を行うことで、気づきや課題を意識しながら取り組む子どもが多かった。	
 	

第1回 令和5年4月27日 午後3時～

- 1 ICT活用の目的
 - 子どものより良い学び・育ち
 - 今後の社会状況を見据えた先進的取組
 - 市立保育施設としての役割
- 2 ICT活用の経過
- 3 検討内容・項目
 - ① 研修に関する協議
 - ② ICT活用に係る年間計画
 - ③ 各施設のICT活用に係る共有 各施設活動内容報告
公開保育に係る共有
いいね！シートに係る共有
 - ④ 活動報告冊子の作成
 - ⑤ 次年度活動に関する検討
- 4 今後のスケジュール
- 5 その他
 - タブレット管理について

第2回 令和5年5月25日 午後3時～

- 1 共有の方法について
- 2 いいね！シートに係る共有 各施設活用内容報告
- 3 活動報告冊子に関する協議 実践事例 内容について
実践事例 掲載数について
各園担当について
- 4 その他
 - 実践報告作成にあたって確認事項
 - 各小学校 ICT 活用授業公開について報告
 - 保育博・関西 ICT 展について

第3回 令和5年6月22日 午後3時～

- 1 「スマートエデュケーション」操作説明会について
- 2 各アプリの説明および実践
 - 「おとねんど」「mobie」「Max-see」「どうぶつえん」
- 3 その他

第4回 令和5年7月27日 午後3時～

- 1 「スマートエデュケーションわくわくスコープについて」
- 2 各小学校授業公開について報告

- 3 いいね！シート共有
 - 4 保育博報告
 - 5 確認事項
- iOS アップデートについて

第5回 令和5年8月24日 午後3時～

- | | | |
|---|--------------------|---|
| 1 | iOS アップデートについて | |
| 2 | 関西 ICT 展参加者報告について | |
| 3 | いいね！シート共有 | |
| 4 | ICT 冊子について具体的構成の協議 | フォントの決定
コメント確認
拡大装置名称について
冊子分担決定 |
| 5 | 確認事項 | |

第6回 令和5年10月26日 午後3時～

- 1 iOS アップデートについて
- 2 いいね！シートについて
- 3 ICT 冊子について コメント修正・確認
講演内容掲載について
今後のスケジュール確認について

第7回 令和5年12月22日 午後3時～

- 1 いいね！シートについて
- 2 冊子作成について コメント修正・確認
今後のスケジュール確認について
- 3 アップデート
アプリインストールについて
- 4 その他

第8回 令和6年1月25日 午後3時～

- | | | |
|---|-------------|---|
| 1 | いいね！シートの共有 | |
| 2 | 冊子について | |
| 3 | 今年度委員会の振り返り | 構成メンバーについて
年間スケジュールについて
冊子について
座学・研修について |
| 4 | 次年度に向けて | |
| 5 | 終わりに | |

芦屋市立認定こども園及び保育所 ICT活用検討委員会委員

委員

岡 本 知 代	市立緑保育所	所長
渡 部 幸 恵	市立西蔵こども園	副園長
中 本 香代子	市立岩園保育所	副所長
野 田 里 果	市立精道こども園	保育教諭
田 口 彩 菜	市立精道こども園	保育教諭
松 本 美歌子	市立西蔵こども園	保育教諭
竹 本 翔	市立西蔵こども園	保育教諭
志 熊 亜 美	市立岩園保育所	保育士
藤 原 弘 美	市立緑保育所	保育士
菊 樂 真実子	市立緑保育所	保育士

事務局

澤 崎 洋 子	こども福祉部こども家庭室ほいく課ほいく係長
西 尾 裕 子	こども福祉部こども家庭室ほいく課

(以上、順不同)

芦屋市立認定こども園及び保育所 I C T活用検討委員会設置要領

(目的)

第1条 この要領は、本市認定こども園及び保育所における就学前教育・保育の質の向上を図り、子どもの最善の利益に資するため、就学前教育・保育において I C T 機器を活用するに当たり、その活用に係る各種検討等を行う委員会を設置するために必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 市立認定こども園及び保育所に勤務する施設長又は副施設長
- (2) 市立認定こども園及び保育所に勤務する保育士又は保育教諭
- (3) 市立認定こども園及び保育所を所管する部署に属する職員
- (4) その他委員会が必要と認める者

(協議等事項)

第3条 委員会は、主として I C Tに係る次の事項について協議等を行う。

- (1) 市立認定こども園及び保育所における就学前教育・保育への活用に関すること
- (2) 事例紹介・研究に関すること
- (3) 研修に係ること
- (4) 制度・状況の共有に関すること

(開催)

第4条 委員会は、月1回程度開催する。ただし、開催については、委員会において開催回数等を調整することができる。

(その他)

第5条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項については、委員会で協議して定める。

附則

この要領は、令和3年4月1日から施行する。

おわりに

冊子をお手にとっていただき、誠にありがとうございます。今年度の実践報告を通じて、1年間の挑戦や成果、そして未来への期待を共有できることを嬉しく思います。

厳しいコロナ禍を乗り越え、社会が少しずつ安定へと向かっている中で、新たな時代が始まりつつあります。これからの社会においても、ICTはますます不可欠な存在となり、保育の領域においても新たな展望を切り拓いていくことでしょう。

対面での交流や学びも再開されたことで、これまで以上に結束しやすい社会が広がっています。何より大切なのは人と人のつながり、子どもたちの心に触れる温かな教育・保育の場です。未知の未来が広がる中、これからも保育とICTが描く新しい展望に挑戦していき、子どもたちの可能性を最大限に引き出すために、より良い形を模索し続けます。

冊子を通じてお伝えしたことが、皆様にとって有益であり、子どもたちの未来に寄り添えることを願っております。

最後になりましたが、多くの方々にご指導・ご協力をいただきましたことに深く感謝いたしますとともに、引き続きご指導等お願いいたします。

令和6年3月

芦屋市ICT活用委員会 委員 一同

発 行 日 令和6年3月

編集・発行 芦屋市立認定こども園・保育所 ICT 活用検討委員会

芦屋市 HP ICT を活用した教育・保育活動

